

植物ゲノム・遺伝子源解析センター 月例セミナー

とき 令和元年7月26日（金）16時～17時
ところ 農学部 DS304 講義室

題目 「カーネーションにおけるPDCAの種類と濃度に依存したエチレン生成活性の阻害について」

講師 農学部准教授 小杉 祐介 博士

概略

花卉老化は切り花の観賞期間を制限する主要因である。花器官で生成したエチレンが花卉老化を誘導するカーネーションなどの切り花では、エチレンの生合成・作用を抑制することが観賞期間の改善に有効である。近年、花のエチレン生成を抑制する化合物として、ピリジンジカルボン酸（PDCA）が見いだされた。PDCAにはエチレン生合成系のACC酸化酵素（ACO）活性を阻害する効果が認められている。また最近になって、PDCAの効果は、PDCAのカルボキシル基の位置や添加濃度によって異なることが分かってきた。本セミナーでは、PDCAの種類と濃度がカーネーションの花、花卉、花卉由来酵素液で検出されるエチレン生成活性にどのように影響を及ぼすか調べた演者らによる結果と、PDCAと類似した物質の効果に関する近年の周辺の研究を合わせて紹介する。

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター
(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)